

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回本庄市総合教育会議		
開催日時	令和4年4月20日(水)	午前・午後 午前・午後	1時30分から 2時40分まで
開催場所	本庄市役所 職員厚生室		
出席者	<p>【構成員】 吉田市長、下野戸教育長、岡崎教育長職務代理者、 落合委員、今井委員、高橋委員</p> <p>【教育委員会事務局】 高橋教育委員会事務局長、笠原参事兼教育総務課長、 岡芹学校教育課長、新井教育総務課副参事、 柳教育総務課長補佐、瀧澤学校教育課長補佐、 大澤学校教育課長補佐、学校教育課高柳主査、 教育総務課松島主任</p> <p>【事務局】 内田企画財政部長、野口秘書課長、橋本企画課長、 大倉秘書課長補佐、鈴木企画課長補佐、企画課坂口主査</p>		
議題 (次第)	1 開 会 2 市長挨拶 3 教育長挨拶 4 議 題 「学校の現状及び今後の教育環境について」 5 その他 6 閉 会		
配付資料	・次第 ・資料：学校の現状及び今後の教育環境について ・参考資料：本庄市総合教育会議運営要綱		
その他特記事項			
主管課	企画財政部企画課		

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
事務局 (企画課長)	<p>皆さまこんにちは。本日はお忙しいところ、令和4年度第1回本庄市総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきます、企画財政部企画課の橋本と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、これより会議を始めさせていただきます。</p> <p>なお、本日は傍聴の希望者はありません。</p> <p>次第の2、市長挨拶でございます。本庄市長よりお願いいたします。</p>
市長	<p>皆さまこんにちは。本日は、第1回目の令和4年度本庄市総合教育会議ということで、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>ご案内の通り、市では今年度から新教育長を迎え、下野戸教育長の下、本庄市の教育行政がスタートすることになりました。下野戸教育長には、今までの経験を存分に生かして、本庄市の教育行政進展のために尽力してもらえらるものと、確信を持っています。</p> <p>本市では、昨年度末に大変残念な事件が起きてしまいました。5歳のお子さんが亡くなって発見され、私も本当に心が痛む思いです。この事件に対し、市としては保育園と共に情報を出しながら対応に当たっています。私自身が一番残念に感じておりますのは、身寄りのない母子が身を寄せた先で、こういう事態が起きてしまったことです。非常に痛ましいことであると同時に、こうしたことについて社会全体の課題として考えていくことが必要ではないかと感じます。</p> <p>世の中には様々な幼児虐待の事案がございますが、孤立してしまった母子が身を寄せた先で、このような痛ましい事件が発生してしまうという事案も多く見受けられます。この部分にメスを入れていかない限り、同じような事件が再び起きてしまうかもしれないと考えています。</p> <p>もちろん行政としても、児童相談所や保育園等と連携し、より一層監視の目を光らせていかなければならないと思います。今回の事件では、お子さんの母親からSOSが出ていればという思いが強くあります。SOSが出ていない、あるいは出ていたのかもしれませんが外に現れないケースでこのような事件が起きてしまう、この点に問題の根深さを感じます。</p> <p>今回の事件は5歳のお子さんが被害者だったので、保育園と市の関係において様々な課題がありましたが、就学後のお子さんが被害者となった場合には、教育委員会も含めて学校の対応が問われます。そのため、教育行政においても他人事ではないと感じています。この事件の加害者は起訴されていますが、これから先もまだ捜査が進んでいくと思われれます。二度とこのような事件が起きないために我々に何ができるか、私は重い課題として受け止めています。</p>

	<p>本日は、学校の現状および今後の教育環境についての意見交換とさせていただきます。学校教育環境につきましては、GIGAスクール構想により1人1台のタブレットが導入され、様々な面で大きく様変わりしています。</p> <p>また、子どもを取り巻く状況を考えると、この急速な少子化の中で、学校においても空いている教室が増えている状況があります。一方で、学校の長寿命化という課題がございます。築40年50年と経つ校舎をどうしていくのかという課題もございます。</p> <p>本市においては、学校によって児童生徒の数が増えている学校もあれば減少している学校もあり、こうしたことは全国的な課題ともいえます。また、先進事例を見ますと、学校が単に学校施設というだけではなくて、地域の公共施設の一つとして、地域の公民館や福祉施設等と一体となって活用しているような事例もございます。人口減少時代にあって、財政的にも困難な時代の中で、公共施設をいかに有効に活用していくかということも大きなテーマだと思います。</p> <p>私としては、課題の解決にあたっては、「子どもにとってより良い学びの環境」ということが主眼に置かれるべきだと考えています。将来を担う子どもたちが健やかに成長でき、しっかりと学力を身に付け、豊かな心を育むことができる教育環境という視点から、学校の今後の在り方も考えていくべき時代に来ていると感じています。</p> <p>本市でも、公共施設のあり方等について検討していかなければならない時期に来ていますので、本日は教育という観点から、皆さまとこの問題について、ご議論ができればありがたいと思っています。それでは、限られた時間でございますが、本会議が有意義な時間となりますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。</p>
事務局 (企画課長)	<p>ありがとうございました。続きまして、次第の3、教育長挨拶でございます。下野戸教育長よりお願いいたします。</p>
下野戸教育長	<p>4月1日より教育長となりました下野戸陽子と申します。微力ではありますが、皆さまのご指導をいただきながら一生懸命努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日ここに、令和4年度第1回の総合教育会議が開催されます。先ほど市長のご挨拶にもありましたように、本日の議題は学校の現状及び今後の教育環境がテーマになっています。自らの力で人生を切り開き、たくましく生き抜いていく、自立した子どもたちを育成するための環境づくりについて、皆さまと課題を共有し、議論を深めていきたいと思っております。本日はよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (企画課長)	<p>ありがとうございました。それではここで、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>① 本日の次第 ② 資料：学校の現状及び今後の教育環境について ③ 参考資料：本庄市総合教育会議運営要綱</p>

	<p>以上、3点でございます。</p> <p>それでは、これより議題に入らせていただきます。本庄市総合教育会議運営要綱第4条第1項の規定により、市長が本会議の議長となることとされております。これからの議事の進行につきましては、吉田市長にお願いしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。</p>
市長	<p>それでは要綱に基づき、議事の進行をさせていただきます。会議のスムーズな進行にご協力をよろしくお願ひいたします。</p> <p>本日の会議録でございますが、本庄市総合教育会議運営要綱第7条第2項の規定により、「会議録には、市長及び市長が指名する1人の構成員が署名するものとする」とあります。本日の会議録につきましては、私と下野戸教育長が署名するというところでよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p>それでは、事務局にて作成された会議録につきましては、本日出席の皆さまにご確認いただいた後に、私と下野戸教育長で署名を行うこととさせていただきます。</p> <p>では議事に入らせていただきます。「学校の現状及び今後の教育環境について」事務局から説明をお願いします。</p>
【議題】学校の現状及び今後の教育環境について	
事務局 (学校教育課長・ 教育総務課長)	(資料に基づき説明)
市長	<p>ありがとうございます。ただいま、今後の児童生徒数の推移、施設の現状、教育環境の今後ということで、ご説明いただきました。今までの説明について、皆さまからご意見等ありますか。</p>
今井委員	<p>学校施設整備の方向性について、改修を前提に80年程度利用していくということですが、これは児童数生徒数の減少を踏まえて考えられているのでしょうか。</p> <p>既存の学校は建設当時の児童数に合わせて作られていると思いますが、今後も児童数が減っていく中で、改修工事の方向性が既に決定されているということなのでしょうか。</p>
落合委員	<p>児童生徒の推移や学級数の推移等を総合的に見ながら、プランを考えていく時期に来ています。それらを踏まえて、校舎の改築の時期や適正な児童数を考える必要があります。また、公共施設の統廃合の方向性についても、検討していく必要があると思っております。</p> <p>本庄市の教育行政として、施設と子どもたちの状況、あるいは地域のコミュニティの状況を、どのように先取りしてプランニングしていくかということをお明らかにすることが大切だと考えます。</p> <p>これからの社会では、教育と福祉が更にリンクされていくと思</p>

	<p>います。その中で、どのように教育と福祉を両立して展開するかというアクションプログラムを、この会議の中で先んじて打ち立てていくことが、肝要だと思います。</p>
市長	<p>おっしゃる通りです。どこを立脚点に考えていくかということ、まず子どもたちの教育環境です。現在の保護者の方々や今後保護者になる方々も含めた中で、考えや気持ちをしっかりと受け止め、それをベースに将来のプランニングを行っていくのが、正しいあり方であると感じています。</p> <p>何か補足はありますか。</p>
事務局 (教育総務課長)	<p>今井委員からご指摘をいただいた、資料4ページの「学校施設整備は、既存施設を改修し、建築から80年程度利用していくこととなっています。」という記載について、補足でご説明します。</p> <p>市の計画で「本庄市公共施設維持保全計画」という計画がございます。学校も含めた公共施設の維持・管理等について示した計画です。</p> <p>その計画に基づき、学校については建設後20年目に機能を回復する計画改修を行い、40年目には大規模改修ということで、社会情勢等を踏まえ、機能向上を含んだ改修を実施してきました。その後60年目に再度計画改修を行い、80年間使用するということが計画上の方針であるため、このように記載させていただきました。</p> <p>現在の計画の中で、校舎をどのように改修していくかという内容であり、児童数生徒数の減少等は踏まえていないものです。以上でございます。</p>
落合委員	<p>「本庄市公共施設維持保全計画」は、いつ策定されたものでしょうか。</p>
事務局 (教育総務課長)	<p>平成29年です。</p>
高橋委員	<p>施設の耐震改修についてお伺いします。資料3ページに仁手小学校の写真があり、「昭和59年竣工 ※新耐震以降に建築され、未改修の学校施設の例」と記載があります。</p> <p>その下の説明文では、「学校施設の改修については、10校で耐震性の低い校舎等の耐震改修を平成26年度までに行っています。」と記載があります。</p> <p>この仁手小学校の写真は、改修前のものということでしょうか。</p>
事務局 (教育総務課長)	<p>昭和56年6月以降に建築された建物については、新耐震、つまり耐震性の高い基準で作られたものであり、仁手小につきましては基準をクリアしています。</p> <p>「耐震性の低い校舎等の耐震改修を平成26年度までに行っています。」という記載は、昭和56年6月以前に建てられた校舎につきまして、耐震性が確保されてないことから、耐震改修を行ったということでこのように記載しました。</p>

高橋委員	私の記憶では、宮城県沖地震が発生したのが昭和55年か昭和56年の初め頃だったと思います。それが原因で、耐震基準が変わったと記憶しています。そうしますと、昭和56年以前に建てられた校舎については、耐震改修が終わっているということでしょうか。
事務局 (教育総務課長)	その通りです。
高橋委員	ありがとうございます。続けて、児童生徒数についてお伺いします。 資料1ページのグラフで、令和5年から令和9年までは見込みの数値が記載されていますが、これはいつ時点の見込みでしょうか。 市長が色々のご努力いただいて、本庄市の人口減少が抑えられてきていると聞いています。私も非常に喜ばしいと思っています。 今後の児童生徒数について、古い見込みのままですと、先の計画も誤ったものになってしまいますので、この見込みがいつ立てられたものか教えていただけますか。
事務局 (学校教育課長)	令和3年5月1日現在のものです。
高橋委員	見込みは、出生数から割り出したものでしょうか。
事務局 (学校教育課長)	出生数から割り出したものです。
市長	高橋委員のご指摘の通りで、本庄市の人口は、近年、社会増にはなっています。お子さん連れで越してくる方もいらっしゃいます。 この見込みは、今後の転入数を見込まずに、現在の就学児と未就学児から割り出した数字ですので、今後増加する可能性はあります。ただし、増加する地域もあれば、そうならない地域もあるという課題があります。
高橋委員	続けて、通学区域についてお伺いします。 資料1ページに、「本泉小学校については、平成23年度の新入学児童がおらず在校生が17名となり、平成23年4月より休校となっています。」と記載があります。 現状では、本泉地区から秋平小学校や金屋小学校、また児玉中学校に通っている児童生徒は何名くらいいるのでしょうか。
事務局 (学校教育課長)	秋平小学校に通っている児童が10名、児玉中学校に通っている生徒が2名で、合計12名です。
高橋委員	ありがとうございます。
岡崎委員	人口減少の中で、これからの学校の在り方も変わってくると思います。35人学級など、人口減少に合わせて学級の定員も少なくなり、児童生徒数の減少に比べて学級数の減少が少ない見込みになっているのだらうと思います。

事務局 (学校教育課長)	そうですね。学級編成の人数も変わってきています。40人編成から35人編成への移行もありますので、学級数については児童生徒数に比べて減少幅は小さくなっています。ただ、減少となることは確かです。
教育長	補足させていただきます。特別支援学級の増加も、学級数がそれほど減らない要因となっています。
岡崎委員	私の子どもが通っている中学校でも、特別支援学級の数が増えていますので、やはりどの学校でも同じではないかと思います。そういったことを踏まえると、児童生徒数は減少していますが、一方で学級数を増やす必要が生じている部分もあると感じます。
高橋委員	<p>先程のご説明とは離れますが、昨年11月に「本庄市子ども・子育て会議」が開催され、私も出席しました。当日は子育ての様々なことについて話し合われ、私は2点発言しました。</p> <p>1点目はヤングケアラーの問題、2点目は親のアンガーマネジメントの問題です。その会議の後に、市長がご挨拶でもおっしゃった不幸な事件が起きました。</p> <p>親のアンガーマネジメントの問題からお話しします。</p> <p>これは非常に大切なことだと思います。本庄市から、子どもの親に対して「親の学習手引書」という冊子が配られています。その冊子は良い冊子なのですが、「しつけ」という言葉を使っています。</p> <p>「しつけ」の名のもとに、今般の事件も起こっていると推測され、また報道されています。「しつけ」の中で親の怒りが増幅してしまっていて、このような事件が起こることがあるので、親に対する教育が必要だと思いますと、会議で発言しました。</p> <p>続いて、ヤングケアラーの問題についてお話しします。</p> <p>学校教育課長から、小学校と中学校の不登校児童生徒数についてご報告いただいています。2月時点の実績で、小学校では昨年の18名に対して今年は26名、中学校では昨年の67名に対して今年は88名と増加しています。</p> <p>また、今年の4月には、新聞に文科省の調査が掲載されていました。小学校6年生で、5.6%程度のヤングケアラーがいるということでした。その調査では、お手伝いをヤングケアラーに含めているようで、やや多過ぎると感じますが、そういった結果が出ているそうです。</p> <p>子どもが親や兄弟の面倒を見ることによって、不登校が増えていくということも可能性として考える必要がありますので、この点について議論を深めていきたいと、会議で発言しました。</p>
市長	<p>これは、やはり総合教育会議のテーマとして考えることが大事だと感じるところです。</p> <p>子どもに対してたくさんの人の目が注がれる環境、それは愛情を注がれることでもあり、見守りにも繋がり、逆に、子どもを論</p>

し戒める目も注がれるということです。ところが、今の時代は子どもが孤立し、子育ての環境が孤立しています。

「しつけ」という漢字は、身を美しくと書きますが、その名のもとに一方的な暴力を行う事案が全国的に起きています。これは非常に憂慮すべきことと感じます。

親も人間ですから、色々な感情を持つことがあるでしょう。ですが、子どもに接する大人の数が少ないことは、社会として大きな課題です。大人同士で牽制し合うことも無く、子どもが犠牲になる環境が生まれてしまいます。これは何とかしなくてはなりません。

子どもの孤立を防ぐために、政策面だけではなく制度面でも考えていく必要があります。具体的に話しますと、日本では親が離婚すると、子どもの親権はどちらか一方の親が持つこととなります。逆を返すと、どちらか一方の親が養育の義務を負わされてしまうような実態があるということです。

子どもには父親と母親がいて、祖父と祖母もいます。本来、色々な人が関わりながら子どもが育っていきますが、人との関わりが寸断され、孤立した中で子どもを育てざるをえない。

こうした非常に深い問題があるので、アンガーマネジメントのことだけを親に伝えればいいのかというと、そうでは無いのではないかと思います。経済的な問題もありますし、子どもを取り巻く親の環境が追い詰められてしまうことに対して、多方面からのアプローチが必要だと感じており、大いに議論していくべき課題と考えています。

ヤングケアラーの問題についても、色々な背景があります。子どもたちの親世代の賃金は上がっていません。家庭に介護を受ける高齢者がいたとしても、親は働きに出なければならない状況があります。そうすると、子どもが祖父や祖母のケアをすることになります。本来であれば、もっと勉強して、やりたいことがあっても、それができない子どもたちがいます。

実は、総合教育会議に関連して、教育委員の方からの提案もあって始まったことがありまして、市の福祉部門でアスポート事業というものを実施しています。

これは、生活保護世帯のお子さんに対して、ボランティアの方や退職された先生方や学生のみなさんが、週に1度学習の指導をしたり、あるいは生活環境の改善等を含めて、ケアをするという事業です。ヤングケアラーの方を支えることにも繋がる事業だと思います。

前の教育長が、「学力が低い子どもがいた時に、家庭の貧困を原因のひとつとして、その部分を後押ししていくことは、教育現場においては限界がある」と話していました。この問題は、市の福祉部門も一緒に考えていくことが必要だと感じています。

ヤングケアラー、また、アンガーマネジメントについて、皆さ

	<p>まから何かございますか。</p>
今井委員	<p>学校の設備をどうするかということは、市長がおっしゃったように、教育をどうするかというベースの考え方がないと、改修する方向性が見えないと感じます。教育や子どもに対しての視点として、福祉的な要素が求められるようになっており、幼児教育でも家庭支援という視点が出てきています。</p> <p>学校としての機能も、子どもを育て学ばせるというだけではなく、母体となる家庭の支援や地域との繋がりなどを重視すると、改修についての視点も違ってくると思います。</p> <p>本庄東中学校は、地域に開放できるような形のデザインにしたそうですね。学校を地域の中でどのように位置づけていくかという方向性をはっきりと示すことが必要だと感じます。</p> <p>仁手小学校などは、早期に改修する対象になるとは思いますが、児童数が少ない現状がある中で、校舎をきれいにするだけで良いのかと思うところがあります。福祉的な施設を取り入れよう、あるいは、公民館的な要素を取り入れようといった方向性があれば、改修方法も変わってくるのではないのでしょうか。</p> <p>つまり、施設をきれいにするだけではなく、まずは根本について話し合った方が良いということです。</p> <p>ヤングケアラーについては、今の時代、精神的な問題を抱えている親が増えています。離婚や夫婦関係などの親の問題が、子どもに返ってきています。大学生でも、母親が塞ぎがちなので、天気のいい日は外に連れ出すなどして、気を配っているケースもあり、子どもが親の心理的な支えになっている現状も、ヤングケアラーに含まれると思います。</p> <p>病気や身体的な問題だけではなく、最近は心の問題が大きくなっていると感じます。</p>
市長	<p>そうですね。私は子どもを持つ親御さんの気持ちを聞いてみたいのです。学習環境や現在の状況などについて、聞いてみたいと思っています。そして、最も大事なことは子どもたちです。子どもたちの将来のことを考えなければなりません。</p>
今井委員	<p>学校に対して、学習だけではなく生活の仕方や礼儀など、全ての教育を求めてしまうと、無理が生じると思います。</p> <p>学校の中でも、学習については先生が見て、生活については福祉的なサポートする方がいるというように、役割を分けられると理想的だと思いますね。</p>
市長	<p>先生方に全ての負担がかかってしまうことは避けなければなりません。一生懸命、全人的に子どもたちに向き合おうとしている先生はたくさんいると思います。一方、そうではない方がいるのも当然で、全人的な教育を求めると、先生になる人はさらに減ってしまいます。</p> <p>先生方の負担をどのように減らしていくかということは、とて</p>

	も大切なことです。
今井委員	<p>家庭で学習習慣をつけることが難しい場合に、学校で居残り学習をして宿題をすることがあります。それを見るのは、これまでは先生の役割でしたが、地域の方が面倒を見るなど、学校を地域に開放したら良いと思います。</p> <p>親同士の関わりも少なくなっていると思うので、親も心配事があれば学校へ行って、地域の方や親同士で相談できる場があると、地域の結びつきも深まるのではないのでしょうか。</p>
市長	<p>親御さんの個別の意見では、学校に対する過度な期待が出てくる可能性もありますので、様々な意見の中で、共通するものをくみ取っていきたいです。</p> <p>朝から晩まで働いて、子どもに向き合う時間が無く、それでも経済的に厳しい状況にあるかもしれません。だからこそ、学校や学童保育などに教育を頼ってしまう現状があり、それを家庭の問題だと言われても難しい、という状況はあると思うのです。</p> <p>例えば、今井委員がおっしゃったように、学校施設においても、放課後の学習支援などに、地域の方や学生のみなさんにも協力していただけたらと思います。そういった力を借りて、アスポート事業だけではなく、もう少し手厚く学校でケアしてもらえるようになるといいですね。</p> <p>場所としての学校があり、地域の方や福祉関係の職員が協力して子どもを見ていくという形は、これからのニーズとして必要だと思います。</p>
岡崎委員	<p>P T Aは、以前は活動が盛んでしたが、コロナ禍の影響もあり、思うような活動ができないでしょうし、親や家庭の様々な問題等もありますので、そういった会議の場があれば、問題点の洗い出しを含めて、市として意見を吸い上げていくこともできるのではないのでしょうか。</p>
市長	<p>施設のあり方や教育環境のあり方を考える場面でも、お子さんや親御さんはもちろんですが、地域の方、その中でも特に学校に携わっていただいている方々のご意見は、大切にしたいと思います。当事者とは別の有益な視点もあると思います。</p>
落合委員	<p>私は、今から数十年前に中野区の教育委員会で仕事をしたことがあり、当時の職場に社会教育主事の先生がいました。その先生から、学校と地域と家庭との関係性、ゴールデントライアングルをどう作るかが大切だと言われました。</p> <p>学校と地域と家庭の3者がどういった思いを持ちながら、どのように子どもたちを支えていくのか、それを作るのが教育行政だと言っていたことを思い出しました。</p> <p>今は、何か課題があるとP T Aに投げてしまうことが多いと感じます。そうではなく、行政側が地域の協力体制について、学校に関わりのある人たちと共に検証する機会を作ることが必要だと</p>

	<p>思います。</p> <p>私は毎朝、児玉中学校の近くを散歩しながら、児童生徒が通学するのを見えています。皆さん「おはよう」と挨拶してくれますので、わたしも大きな声で「おはよう。気をつけてね」と返します。こうした地域の見守りも、トライアングルの一つの形です。</p> <p>学校と地域と家庭の3者を、三位一体で展開するために、誰が、いつ、何を、どうしたら良いか、それがアクションプログラムではないでしょうか。</p> <p>秋平小学校の地域の方たちは、青年会から年配の方まで、学校や子どもに関わっています。先生方を巻き込みながら、地域の様々なお祭りを子どもたちに継承させようという活動をしています。</p> <p>それぞれの学校や通学区の中で、どのようなトライアングルを描いて、どのように教育環境を作っていくかということ、小中学校単位で検証する時期に来ていると思います。</p>
市長	<p>これからの学校施設や子どもたちの状況を考えた時に、学校と地域と家庭の関係において、色々な面で多くの課題があります。</p> <p>今井委員のご意見を聞きながら、私からもお話ししたいと考えていたことがあります。それは、幼児教育についてです。</p> <p>市内で、公立の教育機関は小中学校のみであり、幼稚園は全て私立です。公立の保育園はあります。保育園の中でも、認定こども園として幼児教育を始めている園はありますが、これから小学生になる子どもたちはどうあるべきか、という市の共通の指針や理念は無く、各園に任せている状況です。</p> <p>しかし、教育上の観点から、市でも幼児教育の在り方について考えていく時期に来ているのではないかと感じています。</p>
今井委員	<p>高崎市や前橋市は、幼児教育の担当の指導主事がいますが、本庄市にはいないですね。</p>
市長	<p>そうです。本庄市と同程度の規模ですと、幼児教育の担当の指導主事を置いている自治体は珍しいのではないかと思います。仮に公立の幼稚園があったとしても、その点についてはあまり考えてないようです。子育ても幼児教育も、子供の育ちを考えたらどちらも必要だと思うのですが。</p>
落合委員	<p>子育ては福祉部門の管轄です。ですので、幼児教育という視点までは踏み込めなかったし、教育部門でも踏み込めませんでした。</p> <p>親は、幼稚園、保育園を区別していないと思います。保育園でも教育を求められます。時代的な動きの中で、本庄市の幼児の教育と保育をどのように統一化していくかということでしょう。幼保一元化といわれ続けていますが、できないまま半世紀経ってしまいました。</p> <p>取り組みやすい内容を子育てプラン、チャイルドプランの中に入れながら、先駆的に始めることも必要ではないでしょうか。</p>
市長	<p>そうですね。理念だけでなく、実践が大切です。プランなどを</p>

	<p>立てることによって、幼稚園、保育園、あるいはそういった施設に通っていない場合も含めて、小学校にスムーズに馴染んでいくための連携や情報交換を、よりシステムティックに取り組んでいくことが大事だと思います。</p> <p>発達に課題のあるお子さんであれば、継続して様子を見ていくことになるでしょうが、それ以外のお子さんに関しては、幼稚園や保育園での様子が小学校には伝わらないという課題もあります。</p>
今井委員	<p>幼稚園と保育園は、保育内容という点では30年ほど前から内容は一致しています。幼稚園では幼稚園教育要領、保育園では保育指針があり、名前は違いますが同じような内容で、保育指針には養護について書かれているという違いがあるだけです。</p>
落合委員	<p>親とすると、意識は同じだと思います。負担金の金額は違いますが、内容の違いを意識している人は少ないと思います。</p>
市長	<p>そうですね。本日、幼児教育にまで話が及ぶとは思っていませんでした。議題について結論は出ないのですが、皆さまと学校の現状や今後の教育環境について、真剣に考えていこうという共通の認識を持つことができたと思います。</p> <p>議事は以上になりますが、その他に何かございますか。</p> <p>無いようですので、進行を事務局にお返しいたします。</p>
事務局 (企画課長)	<p>皆さまには慎重審議大変ありがとうございました。最後に、その他といたしまして、今後のスケジュールにつきまして、ご説明いたします。</p> <p>現在の本庄市教育大綱は、今年度までのものとなっておりますので、次期教育大綱の策定スケジュールを考慮いたしまして、会議につきましては、この後3回の開催を予定してございます。</p> <p>次回、第2回の総合教育会議は6月30日に開催予定でございます。第3回は8月から10月頃、第4回は来年1月頃に開催したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>その他につきましては以上でございます。</p> <p>以上をもちまして、本日の日程をすべて終了いたします。本日は、ありがとうございました。</p>

市 長 吉田 徳 解

教 育 長 下野戸 陽子